



ホームページ「Chiaki's home」

独り言

2003 年

江見
千秋



表紙の「独り言」の書は、
「書道村」主宰の

川戸翠紫先生に書いていただきました。

新しい年を迎えました。

今年も例年通り、二宮海岸に初日の出を見に、ついで帰りに近くの神社に初詣で、家に帰ってお屠蘇（好きなウイスキーですが）とお雑煮で正月気分を味わいました。

初日は曇り時に小雨で見ることができませんでした。初詣では例年と変わらず、今年1年の無事を祈願しました。雑煮を食べ、早々に来た年賀状を見ながら、やっと今日が**元日**だ！・・・と感じた次第です。

暮の紅白歌合戦はマンネリ化し、あまり馴染めず見ずに寝てしまいました。ゆく年くる年が始まって起こされ、年越し蕎麦を食べ、カウントダウンが終わるとメール年賀を発信・・・いつもと変わらない年越しでした。

この様子を振り返ると、新しい年を迎えるといっても、曆に操られ新しい年を迎えたとは思えないようです。

しかし、やはり年越しは必要です。
それは、新年を迎える年越しが無いと、時に立ち止まって過去を振り返り、次には過去の失敗を繰返さず、気を取り戻し頑張るぞ・・・といったマイルストンが無く、気分転換を図る機会がないからです。

自分一人で自分を律することは不可能に近く（僕だけかな？）、暦に**元日**と書かれている日に初日を見に行き、初詣でをする機会を得ることも、自分にとって次のステップを踏むためにおおいに役立っているのです。

これからも、年越しの慣習を大事にし、**元日**を生活の大事なマイルストーンにしたいものです。



どんど焼きの「お団子」と「お餅」・・・

2003.1.19

先日、自宅の近くの小学校で**どんど焼き**が行われ、僕も童心にかえって、馳せ参しました。

子供のころの**どんど焼き**でお餅を焼くことを思い出し、年末に付いた**丸餅**を竹の先を割った間に挟み持参しました。

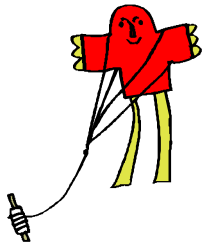
ところが・・・集まった子供達が持ってきて来たのは、竹や木の枝だの先にぶら下げた、色とりどりの**お団子**でした。

お餅は僕だけでした。それも**丸餅**……。チョット恥ずかしいような、チョット誇らしげな気分でした。

所変われば**お餅**の形が違う・・・関東は**角餅**、関西は**丸餅**であることは知っていたのですが、**どんど焼**は**団子**が主流だとは知らなかったのです。

40年余りも関東に住みながら、こんなことに今気付いたのは、世間知らずも甚だしいと（少し??）反省しています。来年は、**お団子**も準備し味わうことにします。**丸餅**も、毎年田舎を思い出しながら搗くので、これも仲間に入れていきたいと思っています。

どんど焼のような、古くから伝わる年中行事は、所変われば風習や習慣が違うのは仕方がないことですが、その違いを知ることとも楽しく、何時迄も続けて行きたいものです。



子供達にも、楽しい行事として受け継いでいって欲しいものです。

「むかしあそびめいじん」と呼ばれて・・・ 2003.2.5

下の「Town」のところでも紹介しましたが、先日町内2つの小学校の1年生を相手に、**むかし遊び**を教える機会に誘われました。

遊びの内容は、「Town」のところでも紹介しましたが、どの**遊び**も60年位前(自分が応対したことも達の頃)学校の休み時間、放課後に夢中になったもののばかりです。しかし、いざ遊び道具を手にとると、「あれ・・・こんな筈ではなかった?」と戸惑うものが多々ありました。

竹馬に乗ると、前でなく後ろに下がる・・・、コマを回そうとすると回らず転がる・・・、メンコの遊び方は?・・・、紙トンボ

7

を飛ばすとかどもは「ヘリコプターが飛んだ!」・・・などなど、50数年の空白は大きなものでした。

こども達との一時は、100人弱の子供達を相手に1時間半位で遊びを伝えるのは、あまりにも短い時間でしたが、自分も一緒になって楽しみました。

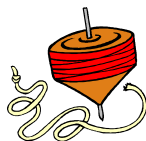
この経験で感じたのは、**遊び**の名前や道具を子供達は知っているが、遊びの楽しみをあまり知らない・・・ということです。一緒に遊ぶと、夢中になって遊んでいるのですが、日頃あまり遊んでいないように思えたのです。

むかし遊びの授業?も悪くはないが、自分がこどもの頃は、2、3級上の先輩が教えてくれ、それを後輩に教えることが普通だった。

8

たのです。世代を飛び越した「むかしあそびめいじん」が、短時間に教えるものではなかったような気がします。
遊びは、受験勉強と違って、短時間に身につくものではないと思うのです。知識の習得もその筈です。

「失敗は成功の基！」 何でも、とにかくやって見よう！



学校はおしえすぎる・・・

2003.2.20

数日前、二宮町立図書館で「図書館リサイクル市」が開かれ、そこに立寄る機会があった。

時間的に遅かったので残り少なくなっていたが、岩波新書を5冊いただいて帰った。

その中に、梅棹忠夫著の「知的生産の技術」があった。ずっと以前、読んだような記憶もあるが、改めて読み始めた。

まだ数ページ読んだだけであるが、その「はじめに」の書出しが、「学校はおしえすぎる」「やりかたはおしえない」であった。

簡単にいえば、「知識はおしえるけれど、知識の獲得のしかたは、あまりおしえてくれない」である。

「大学においても、学問の方法をおしえるよりも、学問の成果をおしえるほうに熱心である。」とも書いてある。

確かに、最近（相当以前からであるが・・・）は子供のころから、試験に出題されそうな知識は、脳味噌に叩き込んでいるが、生活の知恵といったようなやりかたはあまり教えていないように思う。

身近なパソコン操作を教わる場合でも、「これは、このキーを押すのだよ・・・」「この操作をするのは、このアイコンをダブルクリックするのだよ・・・」だけの内容では、そのことを忘れるともうできなくなる。

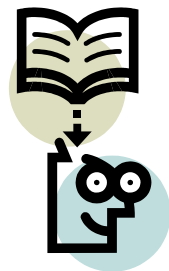
そのような**知識をおぼえる**ことも必要とは思いますが、機能が膨大になり、操作の方法も倍増する最近のパソコンでは、パソコンななず脳味噌がフリーズしてしまうことが度々ある。

毎日使っている範囲は身体がおぼえるのでまだよいが、たまに使用する操作などお手上げになってしまう。

このような状況を少なくするには、多少手間がかかっても基本の操作（例えばメニューバーから辿って行く）や「ヘルプ」の使い方・・・言い換えれば**知識の獲得のしかた**をおぼえておいた方がよさそうである。

物事はそれぞれ、何をおぼえればよいかは異なると思うが、忘れても思い出すような知識を習得したいものである。

そのように考えながら「知的生産の技術」を最後まで読み終えたいと思う。



もう5年・・・まだ5才・・・

2003.3.5

このホームページ「Chiaki's home」を開設してから5年が経ちます。
当初予定した2回／月の更新は、予告した日を多少前後したことはあるが、なんとか実行してきました。
したがって、この「独り言」も120回近く書いたことになりました。

筆無精の僕がこんなに書いたのか・・・と計算してみても我ながら驚きます。

その時々思い付くままに書き、読返したこともないので、何を書いたかはほとんど覚えていません。

時々、読んでいただいた方から、「そうだったのか・・・」などと言われるとなんだか恥ずかしくなる反面、うれしくもなります。こんな時に「書いてよかった！」と感じます。

「独り言」のページだけでなく、「新しい作品」のページも、最初の頃は、田舎で作った野菜や時たま詠んだ俳句？などもまじえながら、主に趣味の木工作品を・・・中には娘の作品もまじえながら・・・紹介してきました。

時には、ホームページにアップするものが無く、慌てて制作したものもあり、制作が目的か？ホームページへのアップが目的か？解らなくなることもありました。今では、協調？の気持ちで切磋琢磨しています。

最近では、町の出来事とともにボランティア活動の紹介もすることにより、自分自身も身近な情報により関心を持つようになりました。

途中、マンネリ化を気にしたり、コンテンツに目新しいものをも考えたり・・・楽しみながら？？更新を続け、もう5年が過ぎました。

しかし、内容を見てみるとまだ5才・・・幼稚園の年長さんくらいと思うところが多々あります。

成長はこれから・・・「むかしあそび名人」に留まらず、「現代・未来のあそび名人」に成長したいものです。

これからも自分史を綴る気持ちで、思い付くまま・気の向くまま、更新をつづけて行くつもりです。
引き続き、皆様のご愛顧のほどよろしくお願いいたします。



「書」・・・見るもの？読むもの？感じるもの！ 2003.3.17

先日、このサイトからもリンクさせていただき、このページでも紹介したことがあるホームページ「書道村」を主宰されている村長先生が出展された書道展を拝見してきました。

流れるように筆が運ばれている書、強弱をみごとにちりばめた書・・・等々で、会場に並べられるのでなく、茶室などに掛け、ひとつつつ眺めたいと思うものばかりでした。

書道展などにあまり縁がない自分も、一つひとつの作品の前に立ち眺めていると、気持ちが悪くするような気分になりました。ただ、残念ながら何が書かれているのかは、書の横におかれ

た小さい紙の説明メモをチラチラ見ないと解らず・・・かといってメモを見ていると書の雰囲気が消えてしまいそうで、途中からは書の雰囲気だけを感じることにしました。

書は見るもの？それとも読むもの？と自問自答しながら画廊を後にしたのです。

帰宅し、先にあげたホームページ「書道村」の「書論蘊蓄」を覗くと、村長先生が『書の可読性』という文をアップされており、そこに『書の現代性を「読める・読みやすさ」に求めず「造型」そのものに希求するところに新しい書作への飛躍が始まる。』とありました。

確かに、書は芸術・・・作者の心情・主張を、余白と線・濃淡で奥行きと3次元的な世界をも表現すると考えれば、見るひとにそのことをアピールできれば良いのかなとも思います。

ただ、見るものにとって、日本語が書かれているのに全然読めないとなると、自分の勉強不足を棚にあげ、チョット惨めな気分にもなります。少しは勉強したいと思うが、フォント（書体）が無数にあると思うと、今更・・・という気持ち！

まあこんな理屈は横に置き、目に入るものが自分にとって心地よいものであれば、作者の気持ちを素直に受取り、「素敵だな!」「これは、こんなことを言いたいんだな!」・・・と自分流に感じることにします。

なお、書出しに紹介しました村長先生の作品は「[つづ](#)」に掲載されています。



桜もおどろき、悲しんでいるのでは？

2003.4.1

今年も春がきた！

例年通り、桜もいっせいに咲き始めた！
しかし、今年は、桜もビックリしているのでは・・・人間さまの
気持ちを和ませてやろうと、自分の命が短いにもかかわらず、足
並みそろえて咲き始めたが、人間さまは戦争をしていた・・・ナ
ンテことだ！と悲しんでいるのでは？

人間以外の動植物は、自然のなかで芽吹き、育ち、命を全うす
る・・・生き延びるために他の種を犠牲にすることはあるが、そ
れ以外の目的で他を犠牲にすることはあまり聞かない。

庭先に来る小鳥たちも、ヒヨドリが来るとメジロは一時退却するが、居なくなるとまた来て食べている。
スズメはヒヨドリが落としたパン屑を家族ずれでついばんでいる。犬も、自分が満腹になると、目の前の自分に与えられた餌を、ハトが食べに来ても薄目をあけて見ているだけ。

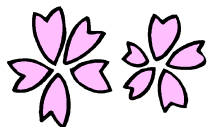
自然界では、人間（人間が知恵をつけたものもかな？）を除き、自分の命を維持するだけの食べ物があれば、あとはおいに生活を楽しんでいるのでは・・・。

聞くだけでもイヤな、物欲のためならいろいろな理窟をつ

けて同じ種を殺しあうような戦争は早く止めてもらいたいものである。

ブッシュさんとフセインさんを上野公園に招待し、満開の桜の下で花見と洒落てみてはどうだろう・・・。

せっかく咲いてくれた桜（桜だけでなく、春の恵み）に感謝しつつ、春を満喫したいものである。



気が付けば、初夏！

200304.25

4月中旬、約2ヶ月振りに帰省した。

自宅を発ったのは、付近の桜が散り終った頃であった。
故郷の町も、たまたま桜祭の最終日であった。

2ヶ月前に帰省した時には、水道が凍結し、水道管の破裂対策に苦慮したが、今回はその心配は無かった。逆に、ドライブの疲れを、屋根の上の太陽熱温水器の湯で取ることができた。
湯船に浸かりながら、太陽エネルギーの凄さに感心した。

故郷に居たのは約10日であったが、日々草花が伸び、山が緑になって行くのを感じた。

(特に、雑草を気にしている自分には、成長の早さが脅威に

25

感じられたのかも・・・)

気が付けば、晴天の日には、青空のもとに鯉のぼりがのびのびと泳いでいた。

草取りに汗を流し・・・久しぶりの「晴耕雨読」のような気分を味わって・・・帰宅してまた驚いた！

もともと狭い庭だが、こんなに狭かったと思うほど、木々が新芽でなく新しい葉を茂らせていた。

気が付けば、初夏！・・・やはり自然はすごい！

しかし、自然は、大昔から同じような営みで季節の移り変わりを演じているはずである。

多分、数日の誤差で、毎年自分の生活の時を刻んでいるはず

26

である。

自分が季節の変化に驚くのは、自分が自然に馴染んでいない・・・むしろ、一步遅れているからではないかと思う。自然の移り変わりに、気分的に新鮮さを感じるのも悪くはない・・・むしろ好ましいことと思うが、できるだけ自然の移り変わりにのっかて、遅れることなく、急ぐことなく、毎日の生活を送りたいと思う。

趣味の目的は？

2003.5.5

パソコン講習会などに於いて、よく「上達のコツは、何か使用目的を持つことです。」と言うことがあります。

「単にパソコンを習う」では習った傍から忘れてしまう。「何々をするために、パソコンを習う」でないとなかなか覚えられないことを、度々自分が経験するからです。

このことを思いながら、「自分が楽しんでいる趣味の目的はなんだろうか？」とふと考えました。

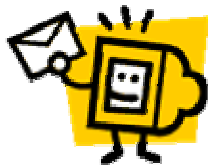
当然、趣味の目的は人それぞれ皆異なると思います。

が相手に届いていると錯覚してしまい、相手が見たかどうかも考えず返事を待っているからです。
立場が変われば、自分に発信した相手もそんな気持ちで返事を待っているはずですよ。

マナーとして、「気配りが大切!」とのことを肝に命じ、少なくとも一日に一回はメールをチェックし、何らかの返事・・・「うん!」とか「سن!」とか・・・は即刻出すような心がけるようにします。

「うん!」とか「سن!」とかは、かえって失礼かな?・・・

できるだけ相手をくたびれさせないように!! したいと思います。



僕の趣味は、木工・インターネットなどなど、いろいろなことを楽しんでいます、その目的は何だろう？・・・

答えは、「**楽しい生活を送る**」とともに「**脳味噌の軟化をなんとか遅らせたい・・・**」ことかな？

この程度の目的か？・・・とも言えるし、これが重要なんだとも言えます。

木工・インターネットも脳味噌の活性化に寄与していると思うし、さらにこの趣味を楽しむために絵を描いたり、図面を画いたりもします。そのための道具としてパソコンを利用する・・・これら全てが脳味噌の劣化を遅らせている・・・と、一人で思っています。

このような趣味を生かしたボランティア活動も、自分にとって趣味の目的ともいえます。

これから、何事にも興味を持ち、趣味の範囲を広げ、その目的に最大限寄与したいと思っています。

ただ、今のところ・・・でなく、これからだと思うが、肉体的健康を目的とする趣味を持ち合わせていません。脳味噌も肉体の一部だと思うと、片手落ちかな・・・反省！

先日、検診に行った病院のカウンターで、元ZARAナウンサー・作家の下重暁子氏の講演要旨が掲載されている小冊子を目にしました。

演題は「明治の女に学ぶ」でしたが、その中に「今自分ができることをするのがボランティアだ・・・今できることをやればいいわけです。そう考えたら、仕事なんて一生なくなりませぬね。」という一節に目がとまりました。

また、ボランティアという言葉も知らなかっただろう明治の女性が、内職的に稼いだお金を親のいない子どもに教育基金に寄付することを「そういうことは人のためにするんじゃない。自分

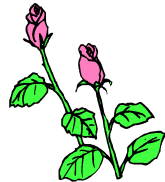
のためにさせていただくんだよ。」という一節もありました。

自分も、ITクラブというボランティア活動グループに参画し、時々「ボランティアとはなんだろ・・・」と考えることがあったのですが、この一節を読んで、臍氣ながら納得できたような気がします。

ITクラブのパソコン講習会などに参画する場合、上記の一節のようなことは考えてはいないのですが、「その時自分の知っていることを説明し、聞く人に役立ててもらおう」。また、質問に「そんなこともあったのか？」と自分も勉強になる・・・このやり取りが、上記の一節に相当するのではないかとふと思ひ

ました。

まあ、堅苦しいことは別にして、日ごろから、「今できることをやれば、仕事なんて一生なくならない!」ことを信じ、「今何かできることはないか?」と考えることにします。



庭師の一服・・・

2003.6.5

狭い庭に茂った木を剪定し、その木を見ながら一休みしている時、フト思い出しました。

それは、庭師の方が庭の手入れをし、一仕事終わって縁側に腰掛け、キセルに火をつけながら、庭の木々を見上げている様子です。子どもの頃、そのような風景を写真や映画で目にとると、庭師はよく休んでいるな・・・と思ったことです。

自分が同様なことを経験して、

これは休んでいるのではなく、作業の結果を見届け、次はどこをどのように剪定すればよいかを考えているのだと・・・多分、

庭師さんは火を付けるキセルには目が向いていなかったはずですが、脳は作業をしている時以上に活動していたと思います。

物事を進める過程で、作業をしている間は、想定していた通りに作業することに熱中し、新しいことはあまり考えないのではないかと思うのです。

考えながら作業をするという方もいますが、その方も、手を動かす前には無意識に手を止め、どうするかを考え作業にかかるはずで。

自分が木工制作をするとき、図面も無く作ることが多いのですが、やはり手を動かす前に考えているようです。そうでなければ自分の創作でなく、道具の創作？ になってしまふ・・・。

よく「間が大切！」と言われるが、これも「間」というあいだに、次は何をしようか？・・・次は何をしてくれるかな？・・・といったタイミングを取ることで、次の行動にスムーズに移れるのだと思います。そして、よい成果も得られるのでしょう。

日頃においても、庭師さんの一服のように、今までのことが良かったかな？・・・では次はどうしようか？・・・とタイミングの良い生活をしたいものです。

最近、参加しているボランティアグループの連絡、サラリーマン時代の友達との飲み会の連絡、ホームページを通しての情報交換などに、E-mailの利用が普通になり、多くなってきました。

筆不精の自分にも、パソコンに向かってなら、あまり苦勞をしないで用件を書くことができます。(パソコンが字を書いてくれるから・・・)

メールの扱いについては、「メールのマナー」だとか「ネチッケット」だとか・・・雑誌などに書かれたものをよく目にする

ことがあります。

しかし、それらには「読みにくくないか?」「不快感を与えないか?」などメールの作り方など形式的なものが多いようです。

メールのやり取りは、もちろん初めての方に出す場合もありますが、大部分は度々やり取りする人が多く、数回のやり取りで、相手の書き方や表現のくせもすぐ理解できるようになり、形式的なものはあまり気にならなくなります。

反面、やり取りのタイミングは、相手の対応ぶりが分かっているにも気になることがあります。

これは、自分中心に考えるからだと思いますが、問合せた回答がすぐ来ないときなど気分的に待ちくたびれることがあります。特に、メールの場合、送信キーを押すと、アット言う間に用件

怖がる大人！怖がらない子ども！

2003.7.5

前回のこのページで紹介しましたように、6月の後半、ボランティア活動で、子ども達とパソコンを使って「オリジナルTシャツ作り」を楽しみました。

この催しに参加して驚いたのは、子ども達がパソコン操作をすぐ覚えてしまうことです。

最初の2時間あまり、パソコンに準備しておいたイラストや文字の取り込みを説明すると、次には、持参した写真などとイラスト・文字などを組合わせ、自分好みの図柄を、説明する必要もなく作っていました。

大半の子は、パソコン画面上に、納得のいくまで写真やイラ

ストの配置を工夫していました。一方では、一発でこれでよいと、余った時間はゲームをしている子もいました。

その間、パソコンの操作についての質問は疎らでした。

子ども達は、パソコンをまるでクレオンか消しゴム変わりに使っているように見受けられました。

自分の絵ができると、当然のごとくデータをF Dに保存していました。

子ども達が作品作りに夢中になっている間に、付き添って来られているお父さんに「お子さんは、自宅で練習されているのですか？」と聞くと、「その様子はあまりないようだ！」とのこと・・・

「大人の講習とかなり違うのですが・・・？」と聞くと、

「それは子供は怖がらないからだろう!？」との返事。

たしかに、以前から行っている大人向けのパソコン講習会を振り返ると・・・

まず質問されるのは、「間違っても壊れませんか？」です。子ども達の口からはそのような声は聞かれませんでした。

怖がる大人!は上達が遅い。

怖がらない子ども!はすぐ上達する。

間違ってもともと・・・、失敗は成功のもと!・・・との気持ちで、子ども心に帰り、いろんなものに挑戦したいものです。

ノーベル賞受賞の田中さんも「失敗を恐れないで!」と、ことあるごとに発言されていました。



「応用動作」は潤滑油!?

2003. 7. 20

ボランティア活動などに参加していると、「**応用動作**」の必要性を感じることがたびたびあります。

ボランティアといっても、主旨・目的は前もって決められているが、対照するとする人はいろいろ・、スタッフもいろいろ・。例えば、パソコンの講習会でも、カリキュラムは決まっているが、受講される方の様子はまちまちです。

したがって、講師をつとめる場合でも、受講者の様子をみて話す内容を変えることがあります。

落語家が、出囃子にのって出てくる間に、客席をみて出し物を考える・。これに似ています。

45

特に、ボランティア活動では、スタッフ側も参加する方々も、経験、環境などがまちまちなので、会社流の組織的な動きをすることは、時として無理を生じることがあります。

このような時に必要なのは**臨機応変な応用動作**ではないかと思えます。

〈臨機応変〉〈アドリブ的な話〉・。が、活動を進めるための**潤滑油**になることが多々あります。

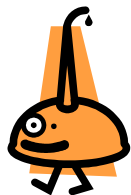
会社生活を卒業した者にとって、「**走りながら考える!**」・。が無難のように思います。

周りをキョロキョロ見ながら、右に左に、時には石を横に退

46

け道を広げて前に進む・・・これが肩の凝らない進み方だと思います。

とにかく、『応用動作』は潤滑油！と考え、周りをキョロキョロ見ながら、『臨機応変』をモットーに、前に進みたいと思います。



子どもは元気！

2003.8.5

最近、ボランティア活動で、子ども達の相手をすることが時々あり、その時感じるのですが・・・

新聞・TVなどのでは、連日子ども達の悪い面が多く報じられています・・・それも現実ではあると思いますが・・・ボランティア活動などで相手をする子ども達は元気いっぱい自分達の毎日を送っているように見えます。

多少元気すぎる子もいますが、「××××すると、△△△△

となるから駄目！○○○○しなさい。」と言うと素直に従います。少し引きこもり気味の子どもには「○○○○すると面白いヨ！」と言うと、夢中で取り込み、友達と見せ合っています。

夏休みに入り始まった、ラジオの「こどもの科学電話相談」を聞いていても、我々大人では気付かないような質問がどんどん出ています。

自分の子どもの頃と異なることは多々ありますが、素直な面はたくさんあります。

この素直さを、より良い方向に導くのは大人の責任の筈です。

新聞・TVなどでは、どうも負な面ばかりが報じられ、

更には子ども達が真似をする危険性のある手口のようなことまで報じられているようにも思えます。

「××××すると、△△△△となるから駄目！○○○○しましょう！」というような内容の記事が、もっともっと欲しいものです。

とにかく、**子どもは元気！**・・・、**大人が元気を出さない**と、**子どもも元気を失いそう**・・・

子どもは大人を真似ます。

大人も子どもに負けないようがんばろう！

「共生」の言葉は何処へ？

2003. 8. 25

4ヶ月ぶりに帰省して見た風景ですが・・・

冷夏といながらも、稲は花を咲かせはじめていました。一面青田が・・・と言いたいのですが、休耕田か過疎でつくる人手がないのか、ところどころ雑草の茂ったところもあります・・・秋の実りを待っていました。

しかし、稲田はイノシシの侵入を防ぐため、電柵（電圧がかかっており、さわると電気ショックを受ける柵）やトタンで囲まれていました。

51

稲田だけでなく、スイカやサツマイモの作られている畑や家の庭まで柵がほどこされていました。

自動車で通り過ぎた山間の集落は、集落自体が柵で囲まれていました。

子どもの頃はこんな風景を見た経験はありません。

なぜ、イノシシやシカが人里まで出てくるようになったのだろう？？

人里には、美味しいものがたくさんあるから・・・？ 人間様が弱くなったから・・・？ 山が荒れ、住みづらくなったから・・・？ 自分の縄張りを広げたいから・・・？ 直接聞いていないので、どれが理由かはわかりません。

彼らはかれらで、「人間様も自分の都合だけを考え、アチコ

52

チで垣根を作ったり、争ったりしているだろう・・・それを真似
てるだけだヨ！」と言っている・・・言葉にはならないので、思
っているかもしれません・・・？

毎日のニュースを見ると、世界のあちこちでのテロ合戦、
平和であるはずの国内も殺人事件、身勝手な汚職・縄張り争いな
どなど・・・
とにかく、イノシシやシカに「静かにしなさい！」と言えない世
相・・・なんでだろう？
ナンデダロ〜？・・・

少しでも相手のことを思いやり、次に自分の身の振り方を

決める・・・これで共生が成り立つと思うのですが、残念ながら
最近「共生」の言葉が何処かへ行ってしまった！ようです。
少なくとも、世の中の辞書からは「共生」の言葉をなくしないよ
う、みんなで努力したいものです。



野草も、世間並みが快適！

2003. 9. 5

ある事務所のロビーに、季節を切り取ってきたような、丹精を込めて育てられた野草の盆栽を見かけました。

野草も、このように育てれば、室内のインテリアにもなるのか・・・と、早速、庭の叢から、種類の蕾を持った野草を掘り出し、鉢に植えました。

毎朝水遣りをして育てました。しばらくして、きれいな花も付け、実も付けました。その間は、狭いベランダを飾ってくれたのですが、花も終わり、実も落ち幹も枯れてくると、つい水遣りも滞り勝ちになり、下葉が落ちて枯れかかってきました。その時も、叢の同種の野草は元気いっぱいほこっていました。

55

野草も、やはり野にいて友だち達とワイワイガヤガヤいいながら？育つのが、もっとも良いことなのだ・・・と、改めて思いました。

子ども達も、塾だ！クラブだ！・・・等々、親から水を与えられ育つのでなく、風になびき、自分の探した大地？より水を吸い上げ、自分の力で友だちと競い合う方が楽しく、元気に育つのではないかと思えます。

早速、鉢植えにしていた野草を、友だちのいる大地に戻してやります。

産経新聞の「朝の詩」欄に、「根っ子」という題で、次のような詩（尾崎充子作 抜粋）が載っていました。

56

.....

それでも

雑草魂は

大切にしたい

.....

踏みつけられても

立ち直る力

名前がなくても

輝く力

気候までが、なんでだろう？

2003.9.20

今年の気候は、夏涼しく(冷夏)、秋が近づくにつれて猛暑・・

「なんでだろう？」

それだけでなく世の中では、爆発・火災、誘拐、戦争とテロ等々・・

「なんでだろう？」と考える暇も無く事件が起こっているの
に・・・天候までが！

やはりどこかがおかしい？

温暖化防止も、口先だけの人間様に、地球が怒っているのか
な・・・とも考えたくありません。

まあ、気候は、気温・雨量などで定量的に推移が記録されているので、そのうちに「なんでだろう？」との疑問は明らかになると思うのですが、その理由が分っても対策が打てるのだろうか？・・・世の中の興味ある事件だけを話題にし、「なんでだろう？」と考えることをすぐ忘れている現状では、ちょっと期待できないのでは・・・？

世の中には、現在のTVや新聞で騒がれている他に、知るべきことがもつともっとあるはずです。

事件として報道されない物事にも注目し、「なんでだろう？」をさらに「ナンデダロー？」と考え、「そうだったのか！」「では、こうしよう！」というところまで考えたいものです。

性格は気持ちを抑え込む！？

2003.10.5

以前から感じていたのですが・・・次の「新しい作品」で紹介しました「**パソコンで絵をかこう**」を始め、改めて感じたことです。

それは、自分としては水彩画のような「透明感のあるラフなタッチ」の絵が好きなのですが、描いてみると、細かいところまで描き込み、とても「透明感のあるラフなタッチ」といえないのです。

性格的に、長年設計業務に携わってきた癖からか、そうなっているのです。

あるいは、自分の性格の欠点を補おうと、気持ちは、その逆を願望しているのか・・・

ともかく、絵だけにでも、自分の気持ちに沿った表現をしたい
と思っているのですが・・・

この年になって、性格を変えるのはまず無理・・・どうすれば
よいかな？と悩んでいても仕方ないので、**性格が気持ちを抑え込
まないよう**、「透明感のあるラフなタッチ」の絵を参考に、それ
以上ラフなタッチの絵を練習することになります。



マニフェスト・・・解るかな!?

2003.10.20

衆議院が解散され、総選挙が始まる。新聞などの報道では、各
政党の主張・公約が毎日のように報じられている。

ところが、その主張・公約を「マニフェスト（政権公約）」とよん
でいる。

マニフェストの内容の前に、「マニフェスト」という言葉がどんな
ものか、有権者が理解できるのかな・・・と心配になった。

目新しいカタカナ言葉で、有権者にアピールしているのかも知れ
ないが、「マニフェスト」の意味を何割の人が理解できるだろう？
まだ、「**政権公約**」といった方が、内容が何か解るのではないかと
思う。

そういう目で見ると「プライマリーバランス（財政の基礎的収支）」、「ロードマップ（工程表）」・・・など、カッコ内の日本語の方が、その意味することが直感的に解るような気がする。（そう思うのは、自分が高年者だからだ・・・とばかりとは思えない。）

特に、総選挙などに出馬しようとしている人は、幅広い有権者に、まず言葉を理解してもらうことが最も必要だと思うのです。

政治家やお役人の話、それを民衆に仲介する役の報道・・・できるだけ多くの人に、直感的に解る言葉を使ってほしいものです。という自分も、相手に解りやすい言葉で説明するよう気を付けた。

如何に洒落た言葉を使っても、相手がキョトンでは、意図することが伝わらない・・・



「物いえば唇寒し秋の風」は有名な芭蕉の句であり、何か言おうと思ったとき、よく思い出す言葉です。

「こんなことを言っているのかなく？」「こんなことを言うとは、よくない反応があるのでは？」と感じるとき、頭に浮かぶことが多いのです。

今回文化勲章を受章された大岡信さんの朝日新聞の「折々のうた」の欄で、この句の前書きとして「人の短をいう事なかれ、己が長をとく事なかれ」とあることが紹介されていました。

このふたつの言葉がならべられていることから考えると、自分が「物いえば唇寒し秋の風」の解釈を誤解していたことを知り

ました。

むしろ、句でなく、「人の短をいう事なかれ、己が長をとく事なかれ」の方を心得ておくべきではないかと思っています。

特に、サラリーマンを卒業し、少しではあるがボランティア活動に参加して見るとそのことを痛感します。

ボランティア活動に際してだけではないはずですが、人の短をいう事の必要なことは何もなく、己の長をとく事の必要もさらさらない・・・これが人と付き合う基本のきほんと思うのです。

「物いえば唇寒し秋の風」は覚えていても、「人の短をいう事なかれ、己が長をとく事なかれ」の逆をしていることが往々にしてあるように思います。これまた反省・・・

この芭蕉の句を思い出すたびに、前書きのことも、必ず思い出したいものです。



多様化にボランティア講師悩み尽きず！

2003.11.20

以前にも呟いたことがあります。ボランティア活動として、講習会などで、町民の方々のパソコン操作習得のお手伝いをしていきますが、パソコン機能の急速な多様化とパソコン操作を習得しようとする方の多様化に、お手伝いをする者として、その進め方に悩みは尽きません。

パソコンの機能は、年々いや月を追って多様化しており、同じことをするにも、基本の「メニュー」から・・・「アイコン」から・・・更に効率をよく「右クリック」というように、沢山の方法があります。

ホームページを見るのも、以前は「アドレス」の欄にURL

という宛先を英数文字でキーインしていたのですが、最近はその欄にキーワードを入れ検索ができるようになり、高齢者に難しい英数文字でキーインをしなくてもよくなってきました。

一方、講習会に来られる方も、若い女性の方から八十歳をすぎの方まで多様化しています。その方々がお持ちのパソコンも数年前のものから最新のものまで、これまた多様化しています。

このような環境で、会社をリタイアしたものがボランティアとしてお手伝いするには、その状況を充分知り、それに対応できる策を持たないと、お手伝いもちぐはぐになることが多々あります。その策は・・・これまた一筋縄では行かず、かといって場当たり的でもダメ！・・・

こんな時、比較的役立つのが自分の経験です。

僕の経験では、「基本はこうだ！」その次に「それを便利にする方法にはこんな方法もある！」と、「急げば廻れ！」といった手順が重要になってきます。

基本を説明することは、多くの人に、肝心なことを知ってもらえ、解らなくなった時に元に戻るからです。

便利な方法は、基本を知った上で、それぞれの方が自分のやり易い方法を、応用問題として見つければよいと思うのです。



今の世の中、何鍋？

2003.12.5

寒くなり、鍋の恋しい季節になりました。

カキ鍋、あんこう鍋、もつ鍋、石狩鍋、すき焼きも鍋の一つ・・・一口で鍋といっても、その種類は無数・・・ちゃんこ鍋などは、これまた中身が色とりどり・・・

2003年も後僅かになり、この一年を鍋に例えると、何鍋だったのであろう？

とにかく、国内では犯罪は右上がり検挙率は右下がり、世界的にはテロテロの言葉が飛び交い、イラクではそのモグラ叩きの様相・・・けっして美味しい鍋に例えられそうもありません。

一面では、鍋料理には「鍋」が必要なのだと、中身のレシピも考えず、「鍋」ありきのワンフリーズを繰り返す人もいる・・・特に、そうあって欲しくない人に多い・・・

鍋を突付く人を思い浮かべ、どんな鍋料理をするか？で、「鍋」の大きさを決めるのが手順と思うのですが、どうも逆に進んだようです。

したがって、中身のレシピも考えず出された「鍋」を、とにかく一杯にしなければと何でもぶち込む・・・その結果、中には石も入る。急ぐあまりにアクも取らない・・・また、我もわれもが鍋奉行になり、「鍋」の中身はドロドロに溶けてしまっている。

これでは美味しい鍋には程遠い・・・これが今年だったので

は？

まだ、今年ももう少し残っている。

この間に、横からソット手を差し伸べてくれる「鍋奉行」のアレンジで、中身の見える美味しい鍋にありつき、温まりながら新しい年を迎えたいものです。



なんでもろくナンデダロ……の一年でした 2003.12.20

もう数日で、2003年も終わります。

この一年がどんな年だったか？を振り返るといっても、何があったかほとんど覚えていない有様です。

ただ、「なんでもろくナンデダロ」の一年だったような気がします。

それは、青少年の犯罪・誘拐、幼児の虐待、保険金目当ての殺人、ロケットの失敗、イラクの問題等々……毎日のように良くないことが起こっているのですが、その根本原因がほとんど判明していないからではないかと思います。

物事、何か起こると必ず原因があり、良いことであれば、

それを手本にまた良いことをする。悪いことであれば、その過ちを繰り返さない。
このように、物事の起こった原因を知ることによって、進歩があると思うのです。

日々のTVや新聞報道を目にしていると、あまりにも事件が多すぎるためか、起きた現象だけが報道され、その原因や対策を目にすることが少ないように思います。
したがって、この一年「なんでだろうナンデダロ」の感想しか言えないようです。

こんなことでは、脳味噌が同じところで渦を巻いているだ

75

けになってしまうので、来年は「なんでだろうナンデダロ」でなく「なんでだろう・・・そうだったのか!」にして、一つづつ整理棚に仕舞い、次の一步の参考にできるよう、その渦が淀まないようにしたいものです。

皆さん、この一年、拙い「独り言」を聞いていただき、ありがとうございました。

来年もよろしく願っています。

良い新年をお迎えください!

76